

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻反対の声明

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻開始から1年が経ちました。依然軍事侵攻は続き、多くの市民が甚大かつ深刻な被害を受けています。また、ウクライナ南部にあるザポリージャ原発は未だ

ロシア軍の管轄下にあり、大事故につながる危険を抱えた状態とされています。このような状況を鑑み、私たちはあらためてロシアによるウクライナへの軍事侵攻に強く抗議し、ロシア軍のウクライナへの攻撃の即時停止およびウクライナからの速やかな撤退を求めます。また、一日も早く原発を安全な管理下に戻すことを求めます。

私たちは、1986年旧ソ連で起こったチェルノブイリ原発事故の被災者となったウクライナの人々を30年以上にわたって支援してきました。被災者の方々は、原発事故により、突然故郷を追われただけでなく、長きに亘って心身の病に侵されるなど、この上ない苦しみを受けてきました。今、その人々が、ロシアの軍事侵攻によって命の危険にさらされています。侵攻によって故郷を追われた人々、爆撃による破壊を受けた人々、家族と引き裂かれた人々、空襲警報の中で暮らす人々、受けられるはずの治療を受けられない人々、・・・、挙げ切ることのできない苦しみを受けていると思います。為政者には、原発事故と軍事侵攻という二重の不条理を背負わされた人々の苦しみは、届かないのでしょうか。悲痛な叫びは届かないのでしょうか。市民を敵に仕立てて、武力の行使を続けていくのでしょうか。

一方、この苦しい戦時下の中、互いに助け合う人々がいます。医療機器や薬を必要とする人に届ける人々がいます。私たちは、自らも苦しい状況にある中、助けの手を差し伸べる人々に驚きと敬意を感じながら、そのような人々を支援しています。国を越えた市民同士の助け合いと支え合いが、命と希望をつなぎ、平和に向けた灯となり力となることを願います。いかなる理由があっても、市民の命と希望を奪い平和に向けた灯を消す武力行使は許されません。武力行使を即時停止してください。

武力や戦争で平和は構築できません。このことは、過去の2度にわたる世界大戦とその後の様々な国際紛争を経て、人類が学んだ教訓です。対話と外交による平和構築を求めます。対話と外交によって、核兵器使用と原発事故の危機を回避し、武力行使を停止させ、そして市民の命を第一とした復興へと未来が拓かれることを強く求めます。